

真宗大谷派 草加松原開教所 浄心寺 寺報

お寺だより もとみち

第 22 号

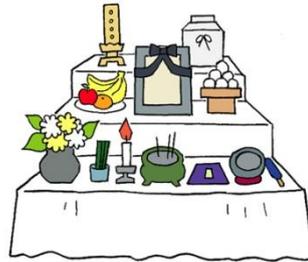
法話の素

お仏壇のはなし

数年前、友人の奥様が急にお亡くなりになり、普段よりお付き合ひのある寺もなく、また同じ宗派であることから葬儀を頼まれました。

葬儀当日は多くの会葬者が弔問に訪れて、喪主として接客に追われる友人とは全く話ができなかつたので、2、3日して改めて自宅へお参りに行かせてもらいました。友人は次男で、就職を機に家を出た分家（新家）と聞いていたので、中陰壇だけだと思つて伺つたのですが、立派な仏壇がすでにあり、それも新しいものではなく、何十年も経過したと思われるほど年季の入つたものだったので、とても印象に残りました。私はお仏壇のことが気になつたので友人のお母さまにそのことを尋ねてみました。

〔中陰壇（ちゆういんだん）〕
四十九日を迎えるまでの仮の祭壇



一般的な葬儀後の中陰壇

お母さまの話によると、それは30年ほど前、分家として今の家を新築したときに、ご主人のお母さまが、友人から言うとお婆さまが、「一軒の家を構えた以上はお仏壇がないというわけにはいかないんだよ」といつてプレゼントして下さいたのだそうです。そしてお婆さまは「これで孫にも手を合わせることを教えなさいよ」だいたいお仏壇のない家なんて犬小屋と一緒にだからね」とおっしゃつたというのでした。この話を聞いて私はとても驚かされました。

私は僧侶として30年以上お寺の仕事をさせて頂いておりませんが、誰も亡くなつたことのない分家で仏壇があるという家庭は一軒も拝見したことがありません。分家では家族の誰かが亡くなつてから、お葬式の後で慌ててお仏壇を求めるところか家族の誰かが亡くなる前に仏壇を準備すると早死にするなどと言つて、誰も仏壇を求めようとはしません。これが現代の一般の方の仏壇に関する思いではないでしょうか。ということとは、一般の方にとつては仏壇とはお亡くなりになつた先祖を祀るためのものであつて、それ以外の目的はないということなのでしょう。したがつて誰も亡くなつたことのない家庭においては仏壇を求めるといふことはあるはずもないこととすし、あつてはならないこととなのでしよう。仏壇とはあくまでも「死」に関連したものであり、「生」に関連したものではありません。



このように考えていくと、友人の家は一般の家庭とは違つて考えをしてみよう。誰か家族が亡くなつていないのに、一軒の家を構えた以上はお仏壇がないというわけにはいかなないと考え、それどころかお仏壇のない家なんて犬小屋と一緒にだつておつしやつたのでしよう。



このお婆ちゃんにとつて仏壇とは、単にお亡くなりになつたご先祖をお祀りするためだけのものではなく、ご先祖をお祀りしていかない仏壇、すなわちご本尊（阿彌陀如来）だけの仏壇にお参りするところが、人間の成長にとつて欠かすことが出来ない行為として捉えられ、ご本尊に向かい礼拝することが人間であることを確保する道と認識を持つておられたのではないのでしょうか。だから仏壇のない家は犬小屋と一緒にだつておつしやつたのでしよう。

《経教は鏡なり》浄土真宗では仏壇を礼拝することで自分の本當の姿が照らし出されると教えます。いのちを正しく生きる教えが「おかげさま」に縁を持つて語りかけて下さる場所が仏壇なのではないでしょうか。



お仏壇の基本(ご本尊と三具足)

ちなみに、わたしたち真宗大谷派のお仏壇の基本はご本尊と三具足（みつぐそく）＝花瓶・ローソク立・香炉です。特に真鍮の鶴亀のローソク立てと青磁の透かし香炉は大谷派の代表的な仏具です。仏具それぞれに大切な意味がありますので正しいお荘厳を推奨しています。迷わずに安心した信仰生活はきちんとした作法に裏付けされるものです。分からないことは遠慮なく住職にお尋ね下さい。 合掌